

2) モニター圃の設置

- ・設置場所
 長崎県南高来郡加津佐町 多比良豊昭氏圃場
 長崎県南高来郡加津佐町 宮本 正克氏圃場
 長崎県南高来郡加津佐町 栗原 義久氏圃場
- ・モニター圃の内容
 シルバーマルチ処理区 本圃：シルバーマルチ処理
 白黒(w)マルチ処理区 本圃：白黒(w)マルチ処理
- ・耕種概要
 播種月日：7月中旬 植付月日：8月上旬
 栽植密度：畦幅200cm×株間60cm、2条植 1600株/10a
- ・調査結果

モニター	調査 月日	シルバーマルチ処理区			白黒(w)マルチ処理区		
		ミナキイロアザミウマ			ミナキイロアザミウマ		
		寄生 葉率 %	頭 / 100葉	被害 果率 %	寄生 葉率 %	頭 / 100葉	被害 果率 %
多比良豊昭氏圃場	10.9	32	50	2.0	98	644	4
宮本 正克氏圃場	10.16	94	2298	4.3	96	2306	31
栗原 義久氏圃場	10.16	90	708	4.4	100	3034	68

- ・考察
 シルバーマルチ処理区での発生が少なく、被害果も少なかった。ミナキイロアザミウマに対するシルバーマルチの忌避効果を確認できた。

3) 講習会の開催

開催場所	開催時期	員数	講習内容
加津佐町	2月13日	50	調査解析は、モニター圃の調査成績と防除対策について

2. ショウガのショウガクロバネキノコバエ

〈広域モデル地区の設置〉

- 設置場所：長崎市
- 設置面積：20ha
- 設置期間：平成元年4月～2年5月
- 設置内容：

1) 調査解析圃の設置

- ・設置場所：長崎市船石町 松尾 昌子氏貯蔵庫
 A貯蔵庫（大型貯蔵庫、13℃冷蔵）：57 m²（間口6.3m×奥行9m×高さ10m）×2室
 B貯蔵庫（小型貯蔵庫、地下貯蔵）：16.5m²（間口3m×奥行5.5m×高さ2m）
 9 m²（間口1.5m×奥行6m×高さ2m）
- ・調査解析圃の構成並びに内容

区	内容	A貯蔵庫 (面積:m ²)	B貯蔵庫 (面積:m ²)	
電撃殺虫器区	中型電撃殺虫器による誘殺	○(57)	-	-
	小型電撃殺虫器による誘殺	-	○(8)	-
粘着トラップ区	黄色カロイト板による誘殺	-	-	○(8)
慣行区(無防除)		○(57)	○(9)	

・貯蔵方法

ショウガを20kg容のビニール袋に入れ、コンテナに収容し貯蔵。

・調査結果

発生消長調査：ショウガクロバネキノコバエ捕獲虫数

調査月日	A貯蔵庫		B貯蔵庫	
	電撃殺虫器区	電撃殺虫器区	粘着トラップ区	
12. 2	0	0	0	
12.12	0	0	0	
12.21	0	1	1	
12.27	0	0	0	
1. 5	0	0	0	
1.16	0	0	0	
1.25	0	0	0	
2. 5	0	0	0	

調査月日	A貯蔵庫		B貯蔵庫	
	電撃殺虫器区	電撃殺虫器区	粘着トラップ区	
2.14	0	0	0	
2.23	-	0	0	
3. 9	-	0	0	
3.22	-	0	0	
4. 2	1	0	0	
4.11	1	0	0	
4.21	-	1	0	
5. 2	-	0	1	

被害調査（調査：4月4日）

	A貯蔵庫		B貯蔵庫		
	電撃殺虫器区	慣行区（無防除）	電撃殺虫器区	粘着トラップ区	慣行区（無防除）
調査根基数	96	50	50	50	50
被害根基数	0	0	0	0	0

・考 察

ショウガクロバネキノコバエの発生は12月下旬及び4～5月にかけて見られたが、その発生は少なく、根茎の被害も認められなかった。

このため電撃殺虫器及び粘着トラップによる防除効果の検討はできなかった。

・定着化への条件

今年はショウガクロバネキノコバエの発生が少なかったため電撃殺虫器及び粘着トラップによる防除効果は明確にできなかったが、防除効果が明らかになれば、他に防除法がないため本技術の定着は進むと思われる。

2) モニターの設置

モニター		貯蔵方法	貯蔵期間	被害状況	被害発生時期
長崎県長崎市船石町	本田正信	縦穴式	11月10日～4月20日	前年並	3月から
長崎県長崎市船石町	竹尾重之	縦穴式	11月25日～4月15日	無	-
長崎県長崎市船石町	赤瀬 康	横穴式	11月4日～4月30日	前年比少	-

今年のショウガクロバネキノコバエによる被害は前年に比べやや少であった。

3) 講習会の開催

開催場所	開催時期	員数	講習内容
長崎市	11月10日	70	ショウガクロバネキノコバエの発生生態と防除対策